

## 公益活動報告書(市民活動実績報告書)(令和7年度)

(宛先)岡崎市長

令和8年4月30日

団体名 木下ふるさと農園

代表者 荻野 嘉美

構成員 8 人(※令和8年4月1日時点の構成員数)

**団体の目的:**団体の会則・規約に定められた団体の目的を記入してください。岡崎の水源の里、ぬかた(岡崎市額田地区)の山里・木下(きくだし)にある「木下ふるさと農園」(田んぼと畑)を拠点に、仲間と共同して、お米作りや野菜作りに取り組む。この「木下ふるさと農園」活動を通じて、豊かな自然とふれあい、育てる喜び・収穫の喜び・仲間共に働くことの喜びとやりがいを育む。岡崎市などの都市部に住む参加者にとっても、「ふるさと農園家族」としてつながり合うことで額田の山里に「心のふるさと」が生まれることを目的とする。

私達の団体が掲げる目的を実現した活動を、以下の項目に従って報告します。

なお、記載内容を一般に公開することに同意します。

■1 団体の活動目的達成に向けて、今年度はどのような活動をしましたか。(公益活動に限る)

活動日 又は期間	場所	公益を受けた ものは?	受益者 (会員以外) 人数※1	活動内容
5月18日	木下ふるさと農園(有機栽培田んぼ)	地域の自然(山と川と田んぼと生き物) お米作りに参加してくれた親子	36人	復元した木下棚田等での有機栽培ミネアサヒのお米作りを都会の親子も参加して田植え体験をする。
6月22日	木下ふるさと農園(有機栽培田んぼ)	地域の自然(山と川と田んぼと生き物) お米作りに参加してくれた親子	18人	有機栽培の田んぼで草取りと田んぼの生き物調査を体験する。アカハライモリやモリアオガエル、シマヘビなど多くの生き物を観察する。
9月20日	木下ふるさと農園(有機栽培田んぼ)	地域の自然(山と川と田んぼと生き物) お米作りに参加してくれた親子	18人	有機栽培の田んぼで有機ミネアサヒの稲刈り体験をする。雨模様ではあったが、手刈りでイネを刈り、しばってはざかけを実施できた。お米になって食べるのが楽しみになる。
年間9日間	木下ふるさと農園(有機栽培田んぼ)	地域の自然(山と川と田んぼと生き物) お米作りに参加してくれた親子	25人	有機栽培の田んぼで援農=縁農ボランティアとして肥料まきや田んぼの草取り作業に参加してくれる仲間がいた。

※1 公益を受けたものが「人」ではない、数が把握できない場合は記載がなくてもよい。<ex.自然環境>

■2 前項1に基づき、1年間の団体活動で岡崎市(広く市民社会一般)に何をもたらしましたか。

まだまだ手探りであるが、岡崎の水源の山里の木下ふるさと農園でのミネアサヒなどの有機栽培のお米作り体験に進んで参加してくれる親子や仲間がいる。そのことが、山里の小さな農家のお米作りの一番の励みになっている。田んぼの草取りに援農＝縁農ボランティアとして進んで参加してくれる仲間がいる。田んぼの生き物調べの講師の宇野総一先生が、「ここ(木下)の田んぼには、アカハライモリやモリアオガエルが豊富にいる。ここには当たり前のように豊かな自然が生きている。」木下ふるさと農園の有機栽培のお米作り体験をして「まるで自分のふるさとに帰ってきたみたいだ」と言ってくださった方もいる。小さな一歩だが、オクオカの山里でのお米作り体験を都会の親子でともにすることで、豊かな自然も守られて、農家の大きな支えとなっていく。そんな意味ある「いのちの根っこ＝イネ」を育てる貴重な体験だと感じている。

### ■3 今年度の活動の公益性を自己評価し、付随する質問にお答えください。

①公益性の度合いを自己評価してください(数字に○をつけてください)

高い ← 5   ④   3   2   1 → 低い

②上記の評価をした理由をお書きください。

いろんな苦勞もあるが、都会の親子が、岡崎市の水源の山里 オクオカでのお米作りや豊かな自然体験の価値を実感してくれていることがうれしい。木下ふるさと農園の歩みも、過疎の地域と農業を支える仲間の輪が広がっていく取り組みのささやかな歩みになっているかなと思うから。